

平成28年度 沼津情報・ビジネス専門学校 学校自己評価 評価報告書

1. 教育理念・教育目標

〈教育理念〉

社会に自立するために必要な人間力と高い専門技術を有する人材を育成し、地域社会に貢献する。

〈教育目標〉

学校教育法に基づき、工業における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業実務、衛生、教育・社会福祉における実務教育による知性高く教養深い有能な職業人や教育者の育成を通して、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ① 新生沼情を確立する。
- ② 入学定員（210名）を確保する。
- ③ 学生満足度を上げ学校評価を高める。
- ④ 就職率95%以上を達成する。
- ⑤ 職業実践専門課程の申請をする。
 - ・ コンピュータ科
 - ・ ゲームクリエイト科
 - ・ CGクリエイト科
 - ・ 医療事務科
 - ・ こども医療保育科
- ⑥ 第3次中期計画を作成する。
- ⑦ 今年のスローガン
 - ・ 学生第一
 - ・ 楽しい学校
 - ・ 新校舎の効率的な運用方法を確立する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価方法： 4（適切） → 3（ほぼ適切） → 2（やや不適切） → 1（不適切）

（1）教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色が明確に示されているか	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
学校自己評価 平均		3.8
<u>成果と課題</u>		
・ 教育理念並びに教育目標は、ホームページ(自己評価・関係者評価報告書)に明示している。学生に向けては年度初め始業式時に教務課長から説明しており、育成人材像等については入学後オリエンテーシ		

<p>ョン時に担任教員より説明している。今後、学生便覧・ホームページの学校概要に明示し、学生・保護者等多くの方々に周知する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科の職業教育の特色(技術・資格・作品・就職・キャリア教育)は、学校案内、パンフレット、ホームページ等に明確に示されている。 ・第3次中期計画を検討し作成した。入りたいと言われる学校・卒業してよかったと言われる学校へと飛躍することに目標を置いた。 ・平成28年度から新教育課程(カリキュラム)が始った。新カリキュラムに関しては各科ごとに組織されている教育課程編成委員会で助言を頂き、PDCAサイクル(PDCA cycle、plan-do-check-act cycle: Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善))を実施し次期カリキュラム改編時に向けて改善に努めている。また、保護者に向けた教育目標等の周知については、毎年5月に開催される後援会総会において、説明を行っている。
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生便覧・ホームページの学校概要に、教育理念・教育目標の明示。 ・各科において、企業連携を充実させ、教育課程編成委員会を通じて社会ニーズを取り入れた新たな教育課程を検討する。
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念目標が明確になっていると思います。 ・教育理念・目標は明確にされています。第三者に伝え、理解をしていただけると感じています。理念目標に向かって実行し成しとげられると感じています。 ・理念や目標を発信し、浸透させて達成していくというのは、重要でありながらもとても難しいことだと思います。その中で地域や保護者への周知も意識され、継続していく姿勢や努力を感じることができました。

学校関係者評価平均

4

(2) 教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	4
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
2-5	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4

2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	4
学校自己評価 平均		4
<p><u>成果と課題</u></p> <p>教育活動全般に関しては、新教育課程（カリキュラム）の変更の検討に当って、教育課程編成委員会等の意見も参考として強化すべき点、見直すべき点を洗い出し、本校としてのキャリア教育を導入した。</p> <p>各項目の詳細については、以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの作成に関しては、全科目のシラバスを前年度中にP D C Aサイクルを実施し来年度のシラバスとして作成している。また、昨年度の反省から学生への配布は、各教科担当より配布し、科目の目的・内容・評価方法等説明をしている。 ・現状カリキュラムに関してはロードマップ作成により体系的に編成している。また、学習時間や到達レベルは、学生便覧によって明確になっている。 ・平成 28 年度からキャリア教育に力を入れており、新入生にはフレッシュマンセミナー、各学年ごとにキャリアディベロップメント・就活ゼミ等のキャリア教育を重視した科目を実施している。 ・産学連携による職業教育では、ビジネス系学科は何らかのインターンシップが授業科目として実施されている。情報系学科は企業からの講師等による実技講座に取り組んでいる。しかし、全体的にインターンシップに関しては学科によって難しい面がある。 ・前期と後期に学校アンケート、授業アンケートを実施して、学生達の意見を基に各教員は、P D C Aサイクルを実施し今後の取り組みに活かしている。 ・成績評価の基準は教務規程で定められており、基準としては明確になっている。各授業科目の到達レベル、評価方法についてはシラバスに記載されている。 ・資格の取得については、ロードマップにより体系的に位置づけ、受験に合わせた指導体制のもと授業運営をしている。 ・職業実践専門課程認定申請・教育課程編成委員会を通じて、企業講師等が充実され、専門性の高い教員の確保は充実されてきている。今後も更に専門性を有した教員の確保が必要となる。また、教育課程編成委員である業界団体・企業との連携により現行カリキュラムの指摘を受け前向きに見直し検討を行なっている。 ・教員の資質向上、指導力向上に関しては、研修計画を作成し、各学科で資質向上のための外部研修へ参加してきたこと、また指導力向上については法人内の合同研修により実施された。 ・習熟度に乏しい学生については、各クラス担任が対応してきたが、その対応も限界があることから、「学力多様化への対応」としてプロジェクトを発足し、検討を重ねた。 <p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生アンケート、授業アンケートの結果を各教員へフィードバックするに当たって、特に非常勤講師への対応が難しい。講師会にて非常勤講師にアンケートの理解をお願いする。 ・職業実践専門課程認定申請について、CGデザイン科が認定を受けていない。「教育課程編成委員会」の企業を決定し、再度申請を行う。また、インターンシップ等を中心とした「企業との連携教育」を充実させ、より専門性の高い授業展開を行う。 ・学生支援については、4名の先生方が定期的に検討会を行い、悩んでいる学生との接し方、傾聴力、指導法の勉強会を2・3週間に1度実施する。 ・「学力多様化への対応」として、平成29年度から学生支援と言う新しい分掌を設け学生支援に力 		

を入れる。

学校関係者 評価コメント

- ・「学力多様化への対応」が組織だった支援となり、安心できる体制だと思う。
- ・学生支援で4名の先生方が学生のカウンセリングしていることはすばらしい取り組みだと思う。
- ・学生・職員満足度を実施する目的を明確にし伝えることは、沼情の魅力を再認識し、何を望んでいるのか、何が問題なのかを明らかにして、永続的に発展に努めることができるのではないかと思います。
- ・これだけ多くの学科が存在する中でも、教育の全体像を把握しながら活動されていることがわかりました。常に課題はあると思いますが、課題を把握して対処方法を検討できる体制づくりが行われていることもわかりました。

学校関係者評価平均

4

(3) 教育成果

3-1	就職率の向上が図られているか	4
3-2	資格取得率の向上が図られているか	4
3-3	退学率の低減が図られているか	3
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
学校自己評価 平均		3.5

成果と課題

教育成果として、就職、資格取得については、それぞれ学生指導を充実させ、目標達成に近い成果を得ることができたが、退学については、昨年に比べ増加した。

各項目の詳細は、以下の通り。

- ・就職率に関しては、殆どの学科が就職内定率を向上させることができた。一方、目標を達成できなかった学科もあった。全体的には学生本人の希望と求人企業をマッチングさせた具体的な就職指導を行ってきた結果、就職内定率 100%を達成した学科が 7 学科中 5 学科となり、飛躍的に向上させることができた。
- ・資格取得率の向上に関しては向上した学科もあるが、横ばい若しくは目標を達成できていない状況である学科もある。また、上位資格への取得が進んでおり、一定の成果を得たと認識された。
- ・退学率の低減に関しては、学校全体として 27 年度 4.6% ⇒ 28 年度 6.2%となり退学者が増加した。
- ・卒業生・在校生の社会的評価に関しては、在校生については学校としてのボランティア活動、イベントを通じて一定の社会評価を頂けているが、卒業生に関しては活躍・評価を得ている事実を確認することはできなかった。

今後の改善方策

- ・就職内定率の更なる向上に向け、早期から学生への意識付けと粘り強く就職活動を行うよう指導するとともに、専門分野就職率向上に向けて専門分野への興味、関心を高めていくための取り組みが必要。
- ・退学者の減少に向けては、学力多様化への対応としてプロジェクトを発足し、検討会を重ねてきた。その結果、学生支援という分掌を設置することにより、退学者の減少に繋げたい。
- ・同窓会組織を中心とした卒業生との連携強化を図るための体制を整備する。

学校関係者 評価コメント

- ・就職内定率は「入りたいと言われる学校」選びの大きな指標となるので、内定向上率は大きなプラス要素である。
- ・退学者を減らす（特に経済的理由）為に学費の納入方法を考えることも大切
- ・経済的な理由で退学者がでるようであれば、ぜひ月額（授業料）を導入してほしい。
退学者のバックグラウンドを知る事で対策を立て、少しでも退学者の数を減らす事につながると思います。
- ・就職や資格取得に対する成果は、学校にとっても地域社会にとってもよい方向に向かっていると感じました。退学率の問題は社会全体の問題であるとも言えますが、ぜひ今後の課題として取り組んでいただきたいと思います。

学校関係者評価平均 3.6

(4) 学生支援

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
4-5	保護者と適切に連携しているか	4
4-6	卒業生への支援体制はあるか	3
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	4
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
4-10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
学校自己評価 平均		3.8

成果と課題

学生支援に関しては、担任や学科担当教員、就職指導担当等教職員が学生を個別に捉えて、必要があれば保護者とも連携を取り、楽しく学生生活を送れるよう支援を行っている。

高校生等に向けた職業教育の一環としての模擬授業や職業説明などは年間を通じて行っているものの、社会人に向けた教育プログラムや卒業生への支援は、行っていない。但し、卒業生については、相談に訪れたらその都度、対応している。

各項目の詳細は以下の通り。

- ・学生の進路指導に関しては、就職担当課を中心に担任教員、学科教員等全教職員で指導に当たり、十分な体制で当たった結果、就職内定率は98.0%、専門分野内定率は70.6%となった。
新たな求人の開拓も企業連携教育と併せて広げている。
- ・学生の健康管理に関しては、校内に「健康診断担当」を置き、健康診断結果を受けて、要精査の必要のある学生に担任教員と協力して、診察、治療等を促している。また、メンタルヘルスに関してはカウンセラーによるカウンセリングを週1回（最大2名）実施しているほか、必要の都度、随時カウンセリングが行われており、学生の心的な支援となっている。
- ・学生の経済的側面に対する支援体制では、日本学生支援機構奨学金と法人独自の学費サポートプランにより整備されている。

- ・本校はクラス担任制を敷いており、学生の出欠状況や健康管理上で問題となりそうな場合には、校内の系長や教務課長と相談のうえ、担任から保護者に連絡を取り連携を取る体制を取っている。これにより、学生の休学・退学を防止できている。
- ・卒業生への支援としては卒業直後の未就職者への支援を行っているが、卒業生全般への支援体制は十分とは言えない。相談に来校する卒業生については、その都度対応している。
- ・高校との連携教育は、姉妹校との高・専一貫教育や近隣高校に対して分野ごとの進路講座等により、高校生の職業選択等進路指導上の支援を行っている。
- ・求人数は増えているが、新学科に対する求人は、積極的に開拓している。就職担当者が優良企業を始め専門性の高い企業に対して訪問し学科の説明を行っている。
- ・ボランティア・イベント・展示・コンテスト等の課外活動について、費用が発生する場合は、学生負担でなく、学校もしくは後援会が負担する。
- ・充実した施設や実習室により社会人教育へのハード的な環境は整備されているが、社会人を対象としたコース設定などの教育プログラムは今後の課題である。

今後の改善方策

- ・同窓会組織を中心とした卒業生との連携強化を図るための体制を整備する。
- ・社会人に向けた教育プログラムを開発するためのニーズ等の調査・検討を行う。

学校関係者 評価コメント

- ・しっかりとした卒業生との連携強化を図ってほしい。
- ・卒業生の活躍の姿を具体的に示す事も大きな意味での学生支援になるのでは。
- ・十分学生支援を実施できていると思う。
- ・卒業生や家族よりのアンケート結果はとても大切ですね、次のステップへつながると思います。
- ・健康管理にも保護者への対話にも幅広く支援を行っていることがわかりました。新しい校舎の中でますます支援が充実されることを期待しております。

学校関係者評価平均

4

(5) 教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか。	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4
5-6	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
学校自己評価 平均		4.0

成果と課題

教育環境は、各科の入学生の数に合わせ実習室等の施設を拡充し、設備についても各科の教育活動に必要な設備の整備をおこなった。

各項目の詳細は以下の通り。

- ・施設・設備の管理は、普通教室はクラス担任、実習室には管理担当を置き、施設管理はもとより、設備の状況を常に管理する体制を敷いて、学生への開放も含めた充実した利用に努めた。

<p>また、利用ルールを定め、広く学生の自習等への開放を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災への対応は、毎年作成されている消防計画及び防災訓練により、体制整備し災害等の発生時に備えている。 ・インターシップでは、実習の事前準備、事後指導を行なっている。 ・海外研修では、説明会を実施し、保護者の同意書を提出していただいている。
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災意識を高める為、防災訓練とともに、防災教育を実施する。 ・今後活発化するインターンシップについては学生の事前事後研修をさらに実質的にしていく必要がある。
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災意識向上には、「抜き打ち避難訓練が有効である」。 ・防災は、東北の震災以降の防災訓練の視点（言葉づかい等）をふまえて、考えてみる方が良いかも。 ・学生・先生を含めた防災訓練を年1回でも実施するといい。 ・とても広く、明るく学習環境はとても充実しています。 ・施設が新しいというだけでなく、その活用方法も積極的に検討されていることがわかりました。地域の課題でもある防災教育にも、今後のさらなる改善を期待しております。

学校関係者評価平均

4

(6) 学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	4
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4
学校自己評価 平均		4.0

成果と課題

学生募集・受け入れに当たっては、本校の教育目標、教育活動などの情報を毎年更新される学校案内、ホームページ等で提供した結果、総定員を満たす志願者を得ることができた。但し、高度ITビジネス科、製菓・製パン科、こども保育科については、定員を満たすことができなかった。

一方、今後、本校の教育活動をタイムリーに発信できる方法を検討する必要があるとの課題が認識された。

各項目の詳細は以下の通り。

- ・志願者への情報は毎年見直し更新されている学校案内、募集要項ならびにホームページ等で提供されている。また、教育成果については、学校説明会、体験入学、新聞、ホームページ等で資格取得状況、コンテスト入賞の状況、就職の状況などの情報を公表している。
- ・学生募集活動は公正に行われており、適正である。
- ・学納金は、法人グループ校全体で収支等を勘案し、平成29年度より改定している。

<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページや SNS を活用し、よりの確な情報をタイムリーに発信する。

<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者も前年より増加しているので素晴らしいと思う。 ・できる限り学校に足を運び、生の声を届けると沼情の魅力を伝えることができるのではと思います。 ・入学者を増やせば退学者が増える可能性もあるなど、そのバランスには苦労されているのではないかと思います。地域に開かれた学校が学生募集でよい結果を出すことには大きな意義があると感じました。
--

学校関係者評価平均 4

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	4
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己評価結果を公開しているか	4
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4

学校自己評価 平均 4.0

<p><u>成果と課題</u></p> <p>学校運営、学校経営に関する諸制度、諸施策は、法人で整備されている制度の下、学校としての運用も十分に行っており、リスク管理、コンプライアンスの面からも適正に運営がなされていると言える。</p>
--

各項目の詳細は以下の通り。

- ・教職員の人事制度については、法人で制度化されており、職員服務規程、給与規程、資格制度、運用規程、人事評価規程で規定されており、教職員の評価に関しては、目標管理制度が運用されている。
- ・学校間の連携は、校長会、校長ミーティング、3つのプロジェクト(進路、教育、募集)が中心となり連携が持たれ、学内については、職員会議、系会議、教務会議、運営会議で職員間の連携が行われている。
- ・非常時の危機管理については、法人全体での危機管理規程に規定されている他、学校レベルでは消防計画に則り、年に1回、避難経路の確認、防災総合訓練を実施しており、学生、教職員の危機意識醸成を図っている。
- ・組織運営については、学校内では職員会議、運営会議、教務会議の他、各種委員会等で審議され、校長の意思決定を支援している。また、同一法人内のグループ校との連携は、校長会、校長ミーティング、各種分科会で意思疎通が図られている。また、運営方針については理事長方針、常務理事方針の下、校長からの学校経営計画書に基づいた事業計画が策定、実施されている。
- ・人事、給与等の規程が整備されている。法人内システムで確認できる。
- ・財務計画並びに監査等については、中期計画の下、単年度の事業計画を策定し、収支を勘案した予算が編成されており、法人内の予算ヒアリングを経て、理事会・評議員会の承認を得ている。また、監査に関しては公認会計士並びに監事の監査が半期ごとに実施されている。このようなプロセスを経た財務諸表に関しては毎年法人ホームページで公表されている。
- ・SNSやホームページに教育活動や成果を掲載し公開している。
- ・情報システムに関しては、学務、会計、人事等の基幹システムが法人全体で構築されており、情報セキュリティ基本方針に基づき管理・運用されている。
- ・自己評価については、毎年度当初に自己評価委員会により実施されており、学校全体として取り組むべき事項や各科で対応すべき事項などを共有するとともに、重点化を図っている。また、関係者評価委員会を6月下旬までに実施し、7月にはホームページへの公開を行っている。
- ・学内にハラスメント委員会を設け学生、教職員からのハラスメント投稿BOXを設置し受けとれる仕組みを設けている。

今後の改善方策

- ・自己評価結果を各職員にフィードバックし、目標管理制度に反映させる。
- ・個人情報保護の法令の趣旨に基づいた個人情報の取得、承諾、管理を徹底する。

学校関係者 評価コメント

- ・評価基準がしっかり確立されているので、素晴らしいと思う。
- ・自己評価をしっかりフィードバックする事が必要ですね。
- ・社会全体が人材不足に陥っている状況で、教職員の方の確保や教育は今後ますますたいへんになってくるのではないかと思います。個人的な関心ごとですが、様々な働き方に対応する環境づくりや評価方法など、もっと知りたいと思う評価項目でした。

学校関係者評価平均

4

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4

8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	4
8-4	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3
学校自己評価 平均		3.8

成果と課題

地域連携、国際交流に関しては、地域への学校施設の開放という形での地域連携は行われているものの、すべからく受動的でもあり、積極的に学校が社会と関わる活動を進めていくべきであるとの課題が認識された。また、留学生への指導については、対象が少数であることから、十分な指導が行われていると言える。

- ・平成 28 年度は、東部地区高校ワープロ競技大会、ぬまづパンまるしえ、東部医療診療報酬研究会、沼津市のリノベーションまちづくり等へ施設を貸出した他、近隣住民の避難施設として開放している。今後、従前に増して地域住民の利用を促進し、地域との連携を充実させていく計画を検討している。
- ・1名在籍した留学生については適切な事務手続きを行い、担任による生活指導を行った。学内には留学生担当を配置し制度上の理解に向けて留学生並びに教員に個別の対応をしている。
- ・本校主催の公開講座や教育訓練講座については、地域企業の新入社員を対象とした講座を実施した。また、サマーナイト公開講座の開催を始め、仲見世商店街の活性化を熟考し地域との連携を行った。

今後の改善方策

- ・地域連携を更に強化すべく、本校主催の公開講座や施設開放を進めるとともに、地域住民、企業、団体等とタイアップしたイベント、プロジェクトを推進できるよう体制を整備する。

学校関係者 評価コメント

- ・「地域連携」が移転のコンセプトの一つであれば、仲見世商店街などとの連携事業は目に見えるカタチになっており、良い取り組みであると思う。
- ・これから今以上の可能性がでてくるように思う
- ・最近沼津ではイベントが多いので、ぜひ学生さんにももっと参加していただきたい。
- ・地域との連携を更に充実される事をお願いしたい。
- ・地域との連携については、できることからしっかり取り組まれている印象を持ちました。今後国際交流の拠点になることも期待できる内容でした。

学校関係者評価平均

4